年間授業計画　新様式例

高等学校 令和5年度（１学年用）教科　　芸術　　科目　書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　A　組～　H　組

教科担当者：（　A～H組：喜入　）

使用教科書：（ 書Ⅰ　光村図書　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】　芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】　生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書の美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。	書道で学習すること・書写から書道へ	○	○	○	○	書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。	○	○	○	2
	・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をも	漢字の変遷と様々な書体		○		○	漢字には五つの書体があることを理解する。 それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する	○	○	○	6
	楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。臨書作品の制作	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑。		○		○	楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 構成を考えながら臨書作品の創作ができる。	○	○	○	12
		牛橛造像記 巻末折込龍門二十品 古典の臨書		○		○		○	○	○	8
2学期	行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 仮名の漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。	文字の造形を学ぶ【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 巻末折込「蘭亭序」 ［コラム］印でわかる古典の真価 争坐位文稿		○		○	行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。　仮名の線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	○	○	○	18
		風信帖 三筆・三跡の書 仮名の成立と種類			○	○		○	○	○	6
3学期	仮名の字源の理解と古典に基づいた用筆を理解する	文字の造形を学ぶ仮名 仮名の筆使い　平仮名　変体仮名 蓬萊切			○	○	仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。　主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。②書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。 ④試作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。 ⑤作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く 創作する 好きな言葉を書こう あなたは、どの書が好き？ 表現の幅を広げよう	○			○	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。　主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10 合計 70